

# インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.186

2017年11月29日

発行所 兵庫教育文化研究所  
〒650-0004

神戸市中央区中山手通 4-10-8

## そのままの自分でいいんだよ ジェンダー平等教育部会 授業研究会

11月、丹波市の小学校で、ジェンダー平等教育部会の授業研究会を実施しました。1年生の学活で、「わたしはあかねこ」（文溪堂 サトシン：作 西村敏雄：絵）という絵本を使った授業でした。この絵本は、家族の中で自分だけ色がちがう「あかねこ」が、好きな自分の色を家族に変えようとする場面から始まります。親切心からの行為であっても、その窮屈さが嫌になり家を出た「あかねこ」が、「あおねこ」と出会い、新しい家族をつくる・・・という話です。



この日は2時間計画の2時間目でした。前時は、家族のきめつけによる窮屈さと、「あおねこ」に自分そのものを受け入れられた安堵感を感じとってほしいと授業をされていました。子どもたちからも、ふり返りの中で「きめつけられてかわいそう」という言葉が出ていました。



本時はそれを受けて、「そのままの自分でいい」ことを押さえつつ、「性は多様であると知る」ことをねらいとしていました。「あかねこ」と「あおねこ」の間に生まれた色とりどりの子どもたちが男の子なのか女の子なのかを考える活動をとおして、子どもたちは「見た目ではわからない」ことを実感していきました。そして、その発展として話された「体の性」と「心の性」が違う場合もあるということ、1年生なりに感じとっていたように思います。

事後研究会では、1年生でこれだけの内容は多かったのではないかと、もう少し分けて段階をふんでもよかったのでは…という反省や、低学年の段階でどこまで理解をもとめるかという課題も出ました。その上で、どこかの学年のひとつの授業だけですべてを理解するようなものではなく、低学年からこうした授業を積み重ねて理解を深めていくことが大切であると再確認しました。この小学校では、今年度から低・中・高の各学団で授業を実施し、それを全校で共有されていることが素晴らしかったです。それらの学校のとりくみや普段の学級づくりが、「じぶんのおもいどおりにすればいいんだよ（自分の思いを大切にしていんだよ）。それぞれきもちがちがうよ」という授業終末の子どもの感想に表れたのではないかと感じました。

本授業の指導案は、組員専用HP（「兵教組」で検索）で公開しています。ぜひご覧ください。